

平成 30 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業教育養成領域での人材育成
第 1 回親会議（第 2 回合同会議併催）会議要録

日時：2018 年 8 月 10 日（金）15 時 30 分～17 時 30 分
会場：東京国際フォーラム ガラス棟 G701 会議室

出席者

宇田英典、菊谷武、坂田隆、鈴木道子（座長）、清野裕、曾根智史、滝川嘉彦、武見ゆかり（副座長）、利光久美子、深柄和彦、松永和紀、目代雅彦、吉池信男

〔全体調整会議〕

武見ゆかり（再掲）、南久則、酒井徹、市川陽子、三好恵子、竹内弘幸、田中恵子、吉池信男（再掲）、永井成美、鈴木志保子、川島由起子

〔管理栄養士部会〕

松本明世、榎裕美、小切間美保、木村典代、長幡友実、由田克士、塚原丘美、新井英一、寺本房子、和田政裕、柳沢幸江、藤井恵子、市川陽子（再掲）、石田裕美、鈴木寿則、南久則（再掲）

〔栄養士部会〕

田中恵子（再掲）、竹内弘幸（再掲）、塩原明世、小澤啓子、神田聖子、三好恵子（再掲）、富永暁子

〔大学院部会〕

塚原丘美（再掲）、利光久美子（再掲）、武見ゆかり（再掲）、由田克士（再掲）、石田裕美（再掲）、高戸良之、吉池信男（再掲）、鈴木志保子（再掲）

〔厚生労働省〕

健康局健康課栄養指導室 清野富久江（室長）、塩澤信良（室長補佐）、井形愛美

【挨拶】

厚生労働省健康局健康課栄養指導室 清野室長より、昨年度は、管理栄養士のめざす姿、養成施設の分析を行ったが、今年度はモデルとしての体系的整理をめざして整理し、知恵を集結して素晴らしいモデル・コア・カリキュラムを作成してほしい旨、挨拶があった。

【議事】

武見委員より本日の出席者の確認、本事業の各会議のメンバーについて説明があった。（出席者名簿、資料 1）

鈴木座長の進行により議事に入った。

1. 事業概要（資料2、追加資料）

武見委員より資料2と追加資料の説明があり、委員より意見が出された。

- ・モデル・コア・カリキュラムの時間配分はどのようになるのか。

委員からの意見に対し、

- ・124単位のうち82単位が必修科目となり、その6割をめざし、それがコアとなる旨、説明があった。

2. 管理栄養士養成の栄養学教育モデル・コア・カリキュラム（案）について（資料3）

鈴木座長より、武見副座長、および案の作成を担当した管理栄養士部会委員がモデル・コア・カリキュラム（案）について説明し、全ての説明のあと、親会議委員の先生方から意見を伺う旨、説明があった。

資料に基づき、各パートを担当した管理栄養士部会委員より概要の説明があり、親会議委員より意見が出された。

親会議委員からの主な意見

- ・全体的にボリュームが多い。濃淡を示して、時間数、単位数の目標値が必要なのではないか。実施していくことにあたっては履修モデルを明確に示してほしい。

・現状をしっかりと捉えられていると思う。専門職同士のつながりも大切な要素で、それに必要な知識を吸収できるような作りになっていると思うが、時間数をどのように配分するかは心配である。科目間で全体的なまとまりを調整していくことが必要なのではないか。

・広く深く学ばなくてはならないので、教える教員が大変なのではというのが実感である。言葉遣いでは「説明する」のは理解できるが、「管理する」というところまで、できなくてはいけないものなのかは疑問である。

・様々な分野を網羅しなくてはならないので、本当に理解しているのかという部分が出てくると思う。考えるプロセスが組み込まれないと、覚えるばかりで終了してしまう恐れがあるので「本当に理解する（考える）」ということに重点を置くべきでは。

・一つ一つを理解し、たくさんのお話を学ぶことも必要だが、複合的な考え方を導入することで、実践につながるのではないかと考える。

・この内容を4年間で要求するのは難しいのではないかと思う。国家試験へのミニマムリクワイアメントは何なのかを考え、思い切ったスリム化が必要ではないか。

・栄養学の体系性を考慮すると、学修目標が多すぎると考える。内容の重み付けが重要となる。

- ・食べることの機能や、食べ物の物性に関する記述がないのは残念である。

・連携と協働など社会との関わりについての記述がないのは残念である。ネットワーク作成、パートナーシップ構築能力など、自助、互助の部分にどのように専門性を生かしていくのかという視点が必要である。

- ・最低限理解しておかなければならない部分が明確ではない。

・なぜ、これを学ばなければならないのかというフィロソフィーが記載されていない、また感じられない。連携していくことの大切さ、全てが結びついているということが大切だということを強調してほしい。

・専修条件について、学修目標への到達度を考慮してほしい。樹形図を作成し、学習の体系性を明確にすることで、学修目標が明確化される。

・学修項目だけではなく、それをどのように学修させるかを考慮して作成してほしい。基本的な生物的、医学的な考え方をどのように栄養学で活用していくのかを考える。

・職業（選択する職業）に関連した学修内容も必要なのではないか。

これに対し、管理栄養士会部会委員より、学部卒業時に管理栄養士として何ができるのか、どのような知識を持っていないといけないのかという部分を親会議はどのように考えているのか、を示して欲しい。「管理する」「実施する」は卒後のキャリアをもって成し得ることなのではないかとの発言があった。

厚生労働省健康局健康課栄養指導室 清野室長より栄養学教育としてどのようなモデル・コア・カリキュラムを作成していくのかについて、ガイドラインの改定も見据えながら、厚生労働省の意見も反映させて作成してほしい旨、発言があった。

3. 今後のスケジュール（資料4）

本日の会議における追加の意見については、事務局へ8月末日頃までに送信いただいたこととの説明があった。

追加意見を含め、本会議での議論を受けて、管理栄養士部会だけではなく、栄養士部会、大学院部会において引き続き検討を進め、全体調整会議にてモデル・コア・カリキュラムを整理することが確認された。

整理されたモデル・コア・カリキュラムについては、12月開催予定の第2回親会議にて提示することが確認された。

（記録：事務局 高橋）